

発達する熱帯低気圧に関する説明

この資料は、9月3日12時現在に入手可能な予測資料を用いて作成した説明資料です。
最新の気象情報は、気象台ホームページから確認ください。



気象庁 京都地方気象台

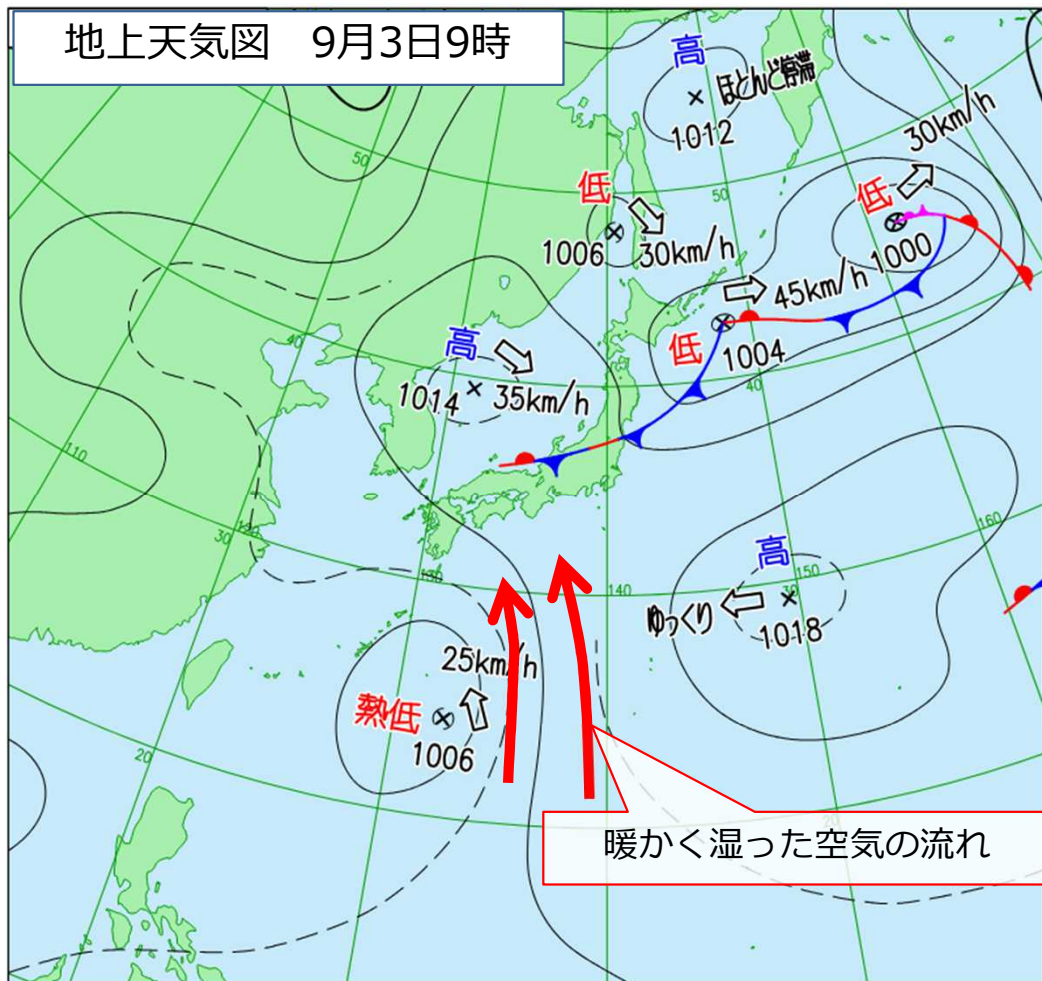
発達する熱帯低気圧の進路と影響のポイント

- 熱帯低気圧は、3日夜に台風へ発達する見込み。
- 熱帯低気圧は、南西諸島付近を北上して4日夜に九州へ接近した後、進路を東よりへ変え、5日にかけて西日本付近を進む見込み。京都府へ最も接近するのは、5日日中となる見込み。
- 現時点では、台風が西日本を通過する間は、最大風速が18メートルで暴風は伴わない見込み。「風、波、高潮」は注意報級かそれ以下の見込み。
- 台風が、予報円の北よりの経路を進むか、南よりの経路を進むかで、雨量が大きく違ってくる可能性あり。
- 台風が、予報円の北よりを通過する場合は、警報級の大雨となる可能性が高くなる。一方、南よりを通過する場合は、警報級の大雨となる可能性は低くなる。
- 発達する熱帯低気圧の今後の進路予報に十分留意。

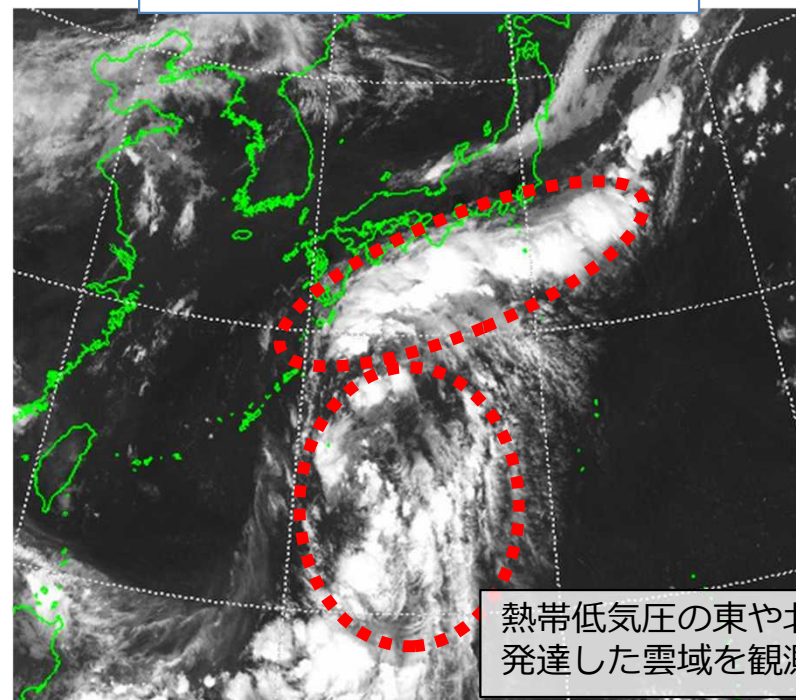
◆ 常に最新の気象情報をご利用ください。

3日9時の気圧配置と熱帯低気圧周辺の雲の実況

地上天気図 9月3日9時

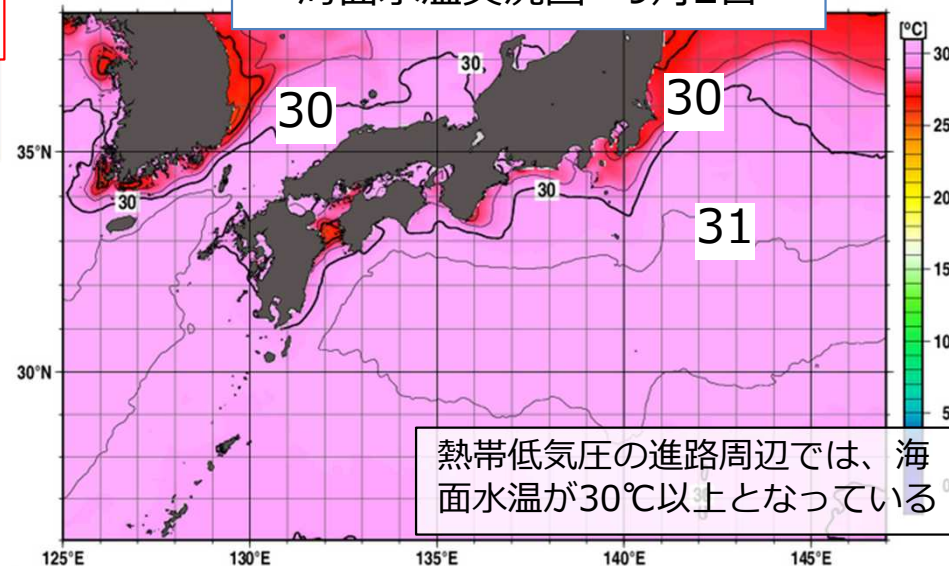


衛星赤外画像 9月3日9時



熱帯低気圧の東や北で発達した雲域を観測

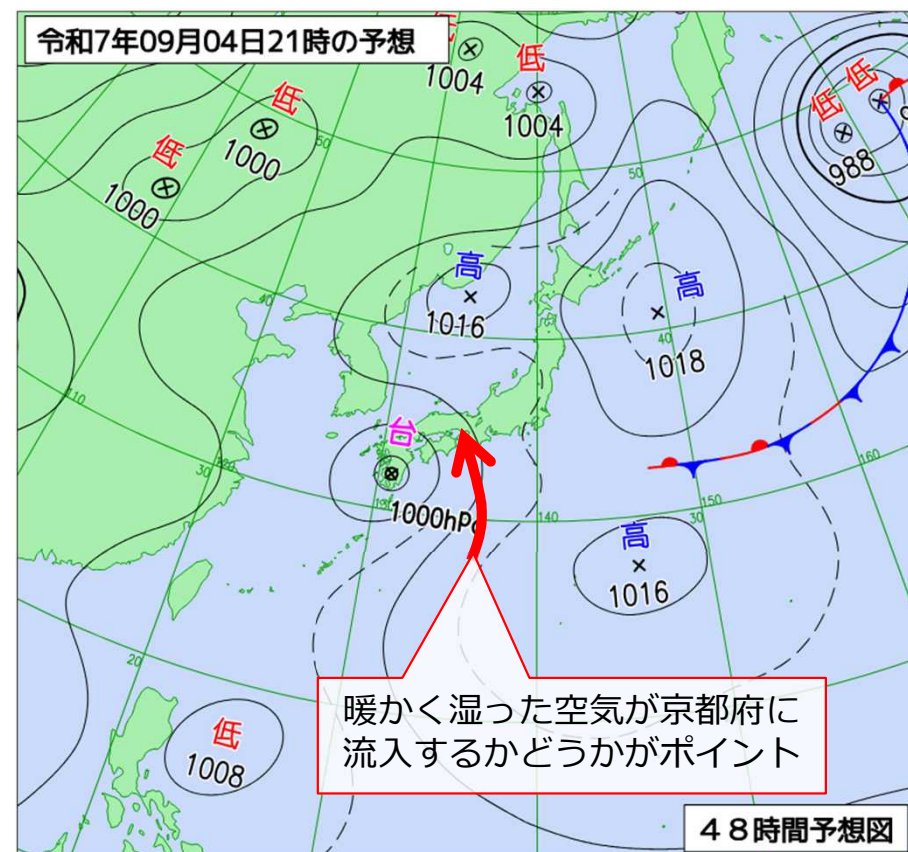
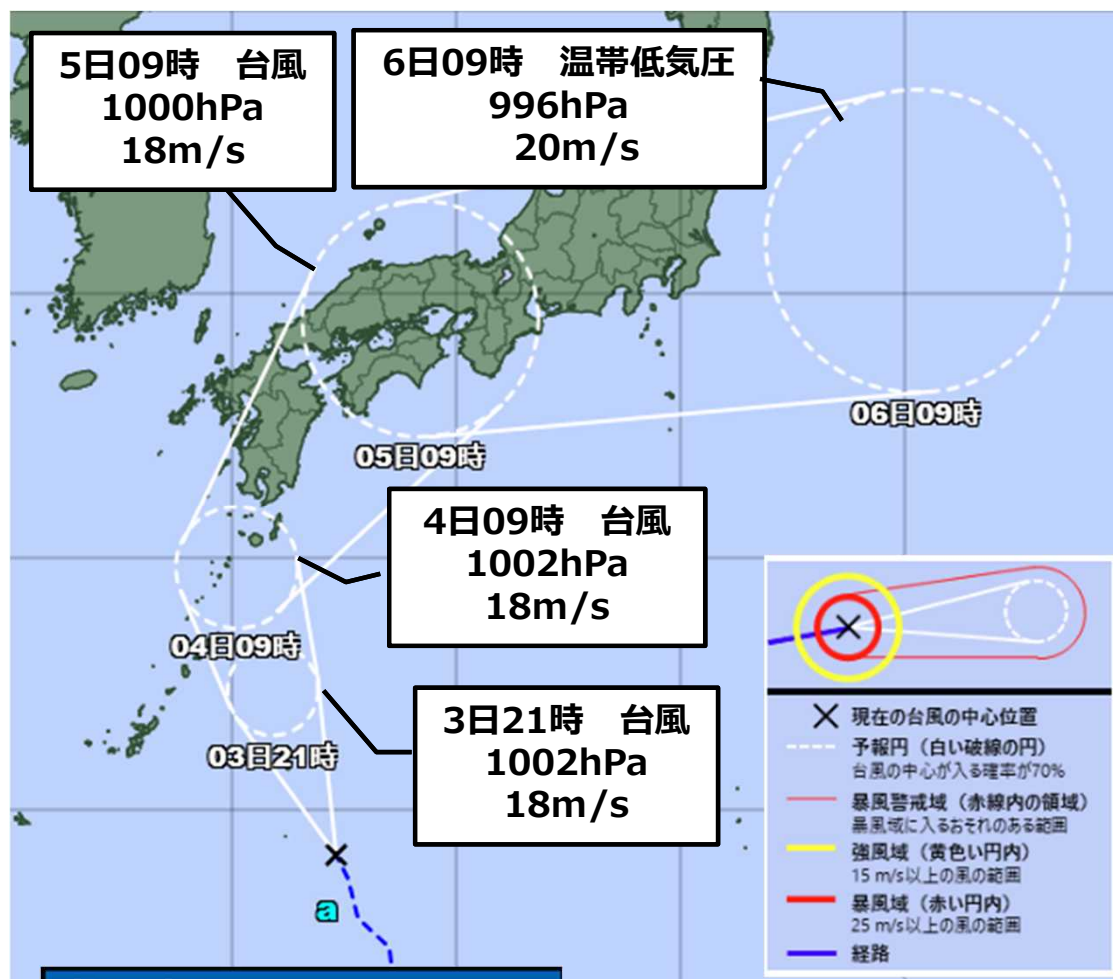
海面水温実況図 9月2日



熱帯低気圧の進路周辺では、海面水温が30℃以上となっている

- 3日9時現在、熱帯低気圧は南大東島の南南東にあって1時間におよそ25キロの速さで北北西へ進んでいる。熱帯低気圧の東や北で発達した雲域を観測している。
- 熱帯低気圧の進路周辺では海面水温が30℃以上となっており、3日夜には台風へ発達する見込み。

3日9時現在の熱帯低気圧の進路予報と4日21時の予想天気図

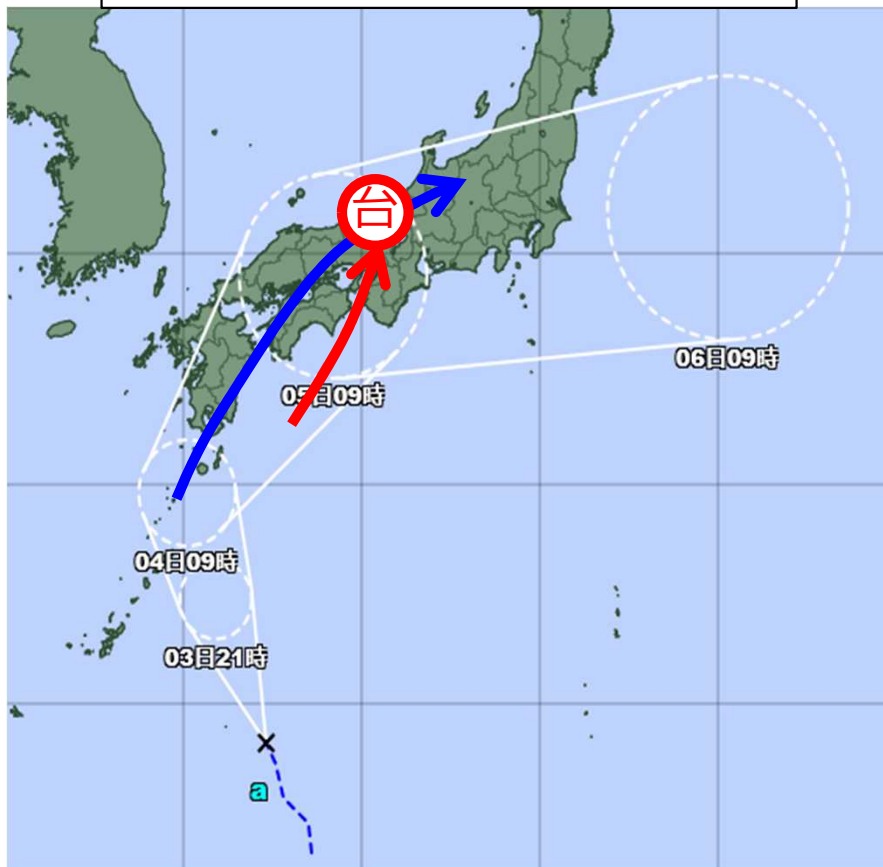


熱帯低気圧 a	
2025年09月03日10時20分発表	
03日09時の実況	
種別	熱帯低気圧
大きさ	-
強さ	-
中心気圧	1006 hPa
中心付近の最大風速	15 m/s (30 kt)
最大瞬間風速	23 m/s (45 kt)

- ❑ 熱帯低気圧は、3日夜には台風へ発達し、4日朝にかけて南西諸島を北上し九州へ接近。
- ❑ その後、進路を東よりに変えつつ、4日午後から5日にかけて、西日本付近を通過する可能性がある。京都府には、5日日中に最も接近する見込み。
- ❑ 台風の東側から回り込む、暖かく湿った空気が京都府へ流入するかどうかポイント。

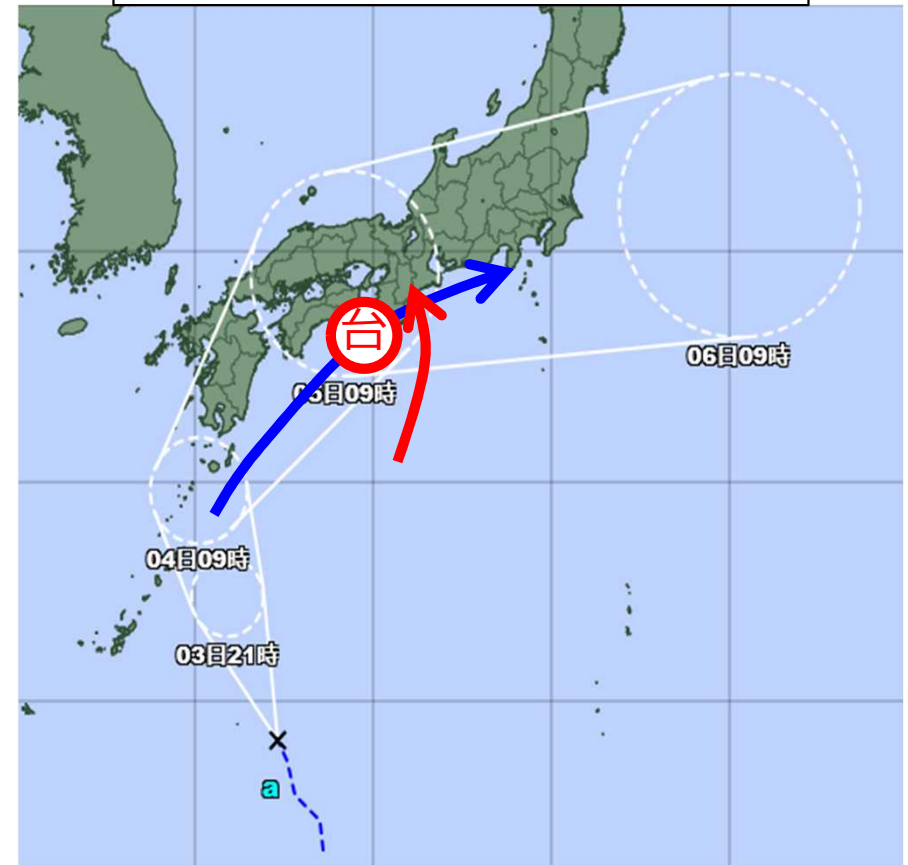
京都府への影響のポイント

台風が予報円の北よりを進む場合



- 台風に向かう暖かく湿った空気が紀伊水道から京都府へ向かって多量に流入する。
- このため、大気の状態が非常に不安定となって予想より雨量が多くなり、警報級の大雨となる可能性が高くなる。

台風が予報円の南よりを進む場合



- 台風に向かう暖かく湿った空気は、紀伊山地等で遮られ、京都府への流入が弱まる。
- このため、雨量は少なくなって、警報級の大雨となる可能性は低くなる。
- ただし、台風の北側に前線が形成されれば雨量が増加する可能性にも留意が必要。

発達する熱帯低気圧による京都府への影響の見通し

		3日				4日								5日			
		12-15時	15-18時	18-21時	21-24時	0-3時	3-6時	6-9時	9-12時	12-15時	15-18時	18-21時	21-24時	0-6時	6-12時	12-18時	18-24時
		昼過ぎ	夕方	夜の はじめ頃	夜遅く	未明	明け方	朝	昼前	昼過ぎ	夕方	夜の はじめ頃	夜遅く				
台風最接近															最接近		
京都府北部	大雨	30	30	30	20	0	0	0	5	20	20	20	20				
	雷	注	注	注	注				注	注	注	注	注				
	強風	陸上	6 ↓	6 ↓	5 ↓	4 ↗	3 ↗	3 ↗	3 ↗	5 ↗	5 ↗	8 ↑	8 ↑	8 ↑			
		海上	8 ↗	8 ↗	8 ↗	8 ↗	8 ↗	8 ↗	8 ↗	10 ↗	10 ↗	10 ↑	10 ↑				
	波浪	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
	高潮	0.5	0.5	0.4	0.5	0.6	0.5	0.5	0.6	0.5	0.4	0.3	0.4				
京都府南部	大雨	30	30	30	20	0	0	0	5	20	30	30	30				
	雷	注	注	注	注				注	注	注	注	注				
	強風	3 ↗	3 ↓	3 ↓	3 ↓	3 ↓	3 ↓	3 ↗	3 ↗	3 ↗	6 ↗	6 ↗	6 ↗				

警報級 注意報級

注意報、警報の発表のタイミングは、注意報級、警報級の現象となる3～6時間前となる。

<24時間降水量（3日12時～4日12時）>

北部：60ミリ 南部：60ミリ

<24時間降水量（4日12時～5日12時）>

北部：80ミリ 南部：100ミリ

<早期注意情報 大雨[中]>

南部 4日夕方～5日

※台風の今後の予想次第で北部にも付加する可能性

- 雨のピークは、5日午前中。南部を中心に1時間に40ミリの激しい雨が降るおそれあり。
- 総雨量は、多い所で100～120ミリ。

ま と め

- 京都府には、5日日中に最も接近する見込み。
- 風、波、高潮
 - 風、波、高潮については、注意報級かそれ以下となる可能性が高い。
- 雨
 - 台風が、予報円の北よりを通過する場合と南よりを通過する場合で、警報級の大雨となる可能性が異なる。
 - 北よりを通過する場合は、警報級の大雨となる可能性が高くなる。一方、南よりを通過する場合は、警報級の大雨となる可能性が低くなる。
 - 台風が予報円の北よりの進路を進んだ場合、大雨となる可能性が高まる。
- 市町村の避難情報などに留意。常に最新の情報を確認してください。

防災事項

- 土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に十分注意。
- 強風、高潮、落雷、突風に注意。

參考資料

雨の強さと降り方

雨の強さと降り方

(平成12年8月作成)、(平成14年1月一部改正)、(平成29年3月一部改正)、(平成29年9月一部改正)

時間雨量(mm)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて	
10以上～20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない	地面一面に水たまりができる		
20以上～30未満	強い雨	どしゃ降り	傘をさしていてもぬれる	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			ワイパーを速くしても見づらい
30以上～50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る				道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる（ハイドロプレーニング現象）
50以上～80未満	非常に激しい雨	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	傘は全く役に立たなくなる			水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険
80以上～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる					

・(注1) 大雨によって災害が起こるおそれのあるときは大雨注意報や洪水注意報を、重大な災害が起こるおそれのあるときは大雨警報や洪水警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは大雨特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。

・(注2) 数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測・解析したときには記録的短時間大雨情報を発表します。この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。なお、情報の基準は地域によって異なります。

風の強さと吹き方

風の強さと吹き方

(平成12年8月作成)、(平成14年1月一部改正)、(平成19年4月一部改正)、(平成25年3月一部改正)、(平成29年9月一部改正)

風の強さ (予報用語)	平均風速 (m/s)	およそ の時速	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	およその 瞬間風速 (m/s)
やや強い風	10以上 15未満	～50km	一般道路 の自動車	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。 電線が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平に なり、高速運転中では横風に 流される感覚を受ける。	樋(とい)が揺れ始める。	20
強い風	15以上 20未満	～70km		風に向かって歩けなくなり、 転倒する人も出る。 高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。 看板やトタン板が外れ始め る。	高速運転中では、横風に流さ れる感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるもの がある。 雨戸やシャッターが揺れる。	
非常に強い風	20以上 25未満	～90km	高速道路 の自動車	何かにつかまっていなくて 立っていられない。 飛来物によって負傷するおそ れがある。	細い木の幹が折れたり、根 の張っていない木が倒れ始め る。 看板が落下・飛散する。 道路標識が傾く。	通常で速度で運転するのが 困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するもの がある。 固定されていないプレハブ小屋が移 動、転倒する。 ビニールハウスのフィルム(被覆材) が広範囲に破れる。	30
	25以上 30未満	～110km					固定の不十分な金属屋根の葺材が めくれる。 養生の不十分な仮設足場が崩落する。	
猛烈な風	30以上 35未満	～125km	特急電車	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。 電柱や街灯で倒れるもの がある。 ブロック壁で倒壊するもの がある。	走行中のトラックが横転する。	外装材が広範囲にわたって飛散し、 下地材が露出するものがある。	50
	35以上 40未満	～140km					住家で倒壊するものがある。 鉄骨建造物で変形するものがある。	
	40以上	140km～						60

(注1) 強風によって災害が起こるおそれのあるときは強風注意報を、暴風によって重大な災害が発生するおそれのあるときは暴風警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは暴風特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。

(注2) 平均風速は10分間の平均、瞬間風速は3秒間の平均です。風の吹き方は絶えず強弱の変動があり、瞬間風速は平均風速の1.5倍程度になることが多いですが、大気の状態が不安定な場合等は3倍以上になることがあります。

(注3) この表を使用される際は、以下の点にご注意下さい。

1. 風速は地形や周りの建物などに影響されますので、その場所での風速は近くにある観測所の値と大きく異なる場合があります。
2. 風速が同じであっても、対象となる建物、構造物の状態や風の吹き方によって被害が異なる場合があります。この表では、ある風速が観測された際に、通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。
3. 人や物への影響は日本風工学会の「瞬間風速と人や街の様子との関係」を参考に作成しています。今後、表現など実状と合わなくなった場合には内容を変更することがあります。

段階的に発表される防災気象情報の活用例

5段階の警戒レベルと防災気象情報

気象状況	気象庁等の情報		市町村の対応		住民がとるべき行動	警戒レベル
数十年に一度の大雨	大雨特別警報	災害切迫 キキクル	氾濫発生情報	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	命の危険 直ちに安全確保！ ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	5
<警戒レベル4までに必ず避難！>						
大雨の数時間～2時間程度前	土砂災害警戒情報 高潮特別警報 高潮特別警報	危険	氾濫危険情報	避難指示 第4次防災体制 (災害対策本部設置)	危険な場所から全員避難 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	4
大雨の数時間～2時間程度前	大雨警報※ 洪水警報 ※大雨警報に切り替える可能性が高い注意報	警戒	氾濫警戒情報	高齢者等避難 第3次防災体制 (避難指示の発令を判断できる体制)	危険な場所から高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	3
大雨の半日～数時間前	大雨警報に切り替える可能性が高い注意報 大雨注意報 洪水注意報 高潮注意報	注意	氾濫注意情報	第2次防災体制 (高齢者等避難の発令を判断できる体制) 第1次防災体制 (連絡要員を配置)	自らの避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	2
大雨の数日～約1日前	早期注意情報 (警報級の可能性)			心構えを一段高める 職員の連絡体制を確認	災害への心構えを高める	1

※ 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3(高齢者等避難)に相当します。

「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)に基づき気象庁において作成